

第1回浜田市総合振興計画審議会 会議録

日時 令和元年8月26日(月)

午後6時30分～午後8時45分

場所 浜田市役所(4階)講堂

[進行/会長]

◆ 開会(午後6時30分)

会長	<p>定刻になりましたので、只今から今年度第1回になります「浜田市総合振興計画審議会」を始めさせていただきます。</p> <p>議事進行は昨年度より会長を務めさせていただいております、私、林の方で進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日はお忙しいところご出席頂きまして、誠にありがとうございます。</p> <p>本審議会は、総合振興計画、定住自立圏共生ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略、これら3つの計画の進捗管理について審議することになっておりまして、本日は、平成30年度の進捗状況についてご意見を伺うこととしております。終了予定時刻は午後8時30分までを予定しておりますが、委員の皆様の忌憚の無いご意見をいただきますよう、改めましてよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、開会にあたりまして近重副市長よりご挨拶をいただきたいと思ます。よろしくお願いいたします。</p>
----	--

1 副市長あいさつ

副市長	<p>皆さん、こんばんは。副市長の近重でございます。委員の皆さんには、大変ご多用のところ審議会の方にご出席頂きまして、誠にありがとうございます。</p> <p>また、平素より浜田市行政の推進につきまして、温かいご支援、ご協力をいただいておりますことをこの場を借りて厚くお礼申し上げます。</p> <p>先程、会長さんよりお話がありまして、委員の皆さんには「第2次浜田市総合振興計画前期基本計画」、「浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」並びに「浜田市定住自立圏共生ビジョン」の3つの計画策定に関わっていただき、その後も引き続き進捗管理については、色々確認いただきましてご意見を伺うということをお願いさせていただいております。</p> <p>本日は、先ほどありましたように平成30年度の進捗状況についてこちらの方からご報告をさせていただいて、ご意見をいただきたいと思ます。また、総合戦略の方は、少し延長をしたいと考えておりますので、それらについてもご意見をいただきたいと思っております。平成30年度の進捗の状況ですが、なかなか目標には届いていない項目もございます。それについては、原因をしっかりと掘んで、取組の見直しを検討しなければならないと思っておりますので、委員の皆様の忌憚の無いご意見をいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
-----	--

[委員・職員紹介]

会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、続きまして、本日の委員の出席状況を事務局からお知らせ願います。あわせて、配布資料の確認もしていただけたらと思ます。</p>
----	---

<p>政策企画課長</p>	<p>失礼します。政策企画課長の岡橋と申します。 どうぞよろしくお願いいたします。 まず、本日の委員の出席状況の報告と配付資料の確認をさせていただきます。 はじめに、本日の委員の出席状況でございますが、委員につきましては、昨年度の審議会から変わっておりません。 時間の都合上、委員の皆さま及び浜田市職員につきましては、事前にお送りしております名簿で紹介に代えさせていただきたいと思っております。 本日の出席状況ですが、<u>出席委員は18名</u>、<u>欠席委員は7名</u>となっております。審議会条例で定めております会議の開催要件の過半数を満たしておりますので報告させていただきます。 次に、議題に入ります前に資料の確認させていただきます。 先般、今日の資料を郵送させていただいたところです。今日お手元に3種類ほど資料をお配りしております。資料1というのがございます。これについては、既に送らせていただいておりますが、修正が入っておりますして差替えをさせていただければと思っております。申し訳ございません。加えて2種類の資料でございますが、委員さんの方から事前にご質問を頂戴しておりますので皆様方にお配りしたものであります。 資料は、資料1から資料8、別冊の総合戦略を加えまして本日お配りしたもので、これを基に説明をさせていただきたいと思っております。なお、持っておられない方や不足があるという方はスタッフの方までお申し付けいただければと思っております。 それでは、議事の進行につきましては、会長さんの方でお願いします。</p>
<p>1 議題 (1) 浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の延長について</p>	
<p>会長</p>	<p>皆様、資料の方は揃っておりますでしょうか。 それでは、議事の方に入って参りたいと思っております。皆様、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。 まず、議題(1) 浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の延長について事務局から説明をお願いします。</p>
<p>政策企画課長</p>	<p>そうしますと先ほど差替えとしました資料1、それから別冊としております資料1別紙総合戦略、この2つを用いて説明をさせていただきます。 まず資料1をご覧ください。この浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、計画期間が2015年から2019年の5年間となっております。このことについては、後ほどご説明をいたしますが、計画の達成度合いについてはまだ道半ばであり、総合振興計画と合わせて今後も総合的に取組を進めていく必要があるとしております。従いまして、今後2022年、令和4年スタートを予定しております第2次浜田市総合振興計画後期基本計画、これに統合一本化を図る為に2020年度、来年度から2021年度の2年間について総合戦略は延長させていただきたいと考えております。 ここで3頁をご覧ください。3頁の最後、一番下のところに総合振興計画と総合戦略の期間ということでお示しをしております。2015年から総合戦略は5年間ということになっておりますが、その翌年2016年から6年間ということになって総合振興計画前期基本計画が計画されておりますことから、この終期を合わせるという</p>

意味で総合戦略を2年間延長する、或いは後期基本計画を統合一本化していくという意味合いで2年間延長するところがございます。

なお、1頁に戻っていただきますと2年間延長している間の対策としましては、今年度、今現在次期対策としまして国・県の総合戦略が策定中でございますが、その動向を見据えて歩調を合わせて行くための具体的な内容を来年度2020年度に別に取り入れをさせていただき、新たな視点で地方創生に取り組んで参りたいと考えております。

「2.人口動態及び推計の現況」につきまして、総合戦略が今年で4年目の評価となっていくのですが、平成27年10月にこの総合戦略を出しております。2040年までに特殊出生率2.17、転入転出の社会動態を±0にすると、以後2060年に向けて改善がみられることからこの目標に向かって取り組んできたわけです。これをグラフに表したものが資料の折れ線グラフになっております。現状としましては、一番下の表をご覧ください。目標数値の状況ですが、特殊出生率については、策定時1.65を2040年に2.17に引き上げるという中で、まだ出生率が公表されていないところです。まもなく県の方からお示しがあると思います。社会増減数については、策定時-319人から2040年には±0の均衡を目指すという中で、昨年状況としましては-371人と策定時より拡大しているという状況になっております。

次頁の「(2)浜田市人口推計の目標達成時期の継続」でございます。これからの人口推計については島根県におかれましては出生率或いは社会増減、これが目標達成に向けて好転をしておられるということでございます。浜田市におきましては国立社会保障・人口問題研究所の最新シミュレーションになりますが、現在の目標設定どおりに進めていくと想定した場合、グラフにもありますとおり若干ながら2060年の人口が好転しているというような結果が示されたところです。

しかしながら、出生率の状況がまだ見えてこない、或いは先ほど言いましたように社会増減のマイナスが拡大しているといったこともありますので、この目標値につきましては、しばらく様子を見るという必要もあろうかと思っておりますので、現在の目標を変えずに取り組んでいくことにさせていただきたいと考えております。下の表は、策定時と現在の数値がどう変わっているかというものです。

3頁をご覧ください。5年間の総合戦略の総括についてでございます。今年度で終了という予定でありました総合戦略の総括については、来年度5年間の実績が分かった時点で効果を検証していこうというふうに考えております。その手法については検討ということにさせていただきたいと思っております。

「4.延長する2年間の数値目標・KPIの設定」につきまして、後ほど詳しく説明しますが、目標値の整合を図るということにしております。2年間延長することによって、総合振興計画から抽出している項目については、そのまま設定し、総合振興計画にない数値については、方向性を引き継いだ上で改めて2年間の数値を設定することとさせていただきました。

「5.外部有識者の参画について」であります。2年間延長している期間につきましても、検証や総合戦略の改定にこの浜田市総合振興計画審議会委員の皆様方からのご意見を頂戴したいと考えております。2年間の総合戦略の延長については以上であります。

続いて資料1別紙をご覧ください。総合戦略の改訂についてでございます。今回の2年間の延長や様々な策定時からの変更点がいくつかございますので、今回改訂をしていきたいと思っております。まず、29頁をご覧ください。(2)計画期間であ

	<p>ります。先ほど申しましたように 2 年間延長することにより 2015 年度から 2021 年度までの 7 カ年の計画といたします。なお元号が変わっておりますので和暦から西暦への表記変更をいたしております。</p> <p>33 頁をご覧ください。2 年間の延長に伴いまして目標の設定をし直すという部分がいくつか出てきております。設定・目標年度の変更に合わせて、赤い字で変更の部分をお知らせしております。</p> <p>35 頁をご覧ください。基本目標がそれぞれございますが、「子供を安心して産み育てる環境づくり」として、重要な指標が出生数であるということが分かります。これについては、令和 3 年の計画終期に向けては 400 人、策定時 450 人であった目標値を 400 人に下げさせていただくということで考えております。なお、総合振興計画の最終年度の令和 7 年度の目標が 400 人になっております。</p> <p>36 頁の「U・I ターンや定住の促進とふるさと郷育の推進」「同じく重要な指標であります社会増減数については、目標値は-260 人と変更はございません。以下、変更している部分については赤字で記しておりますのでお読み取りいただければと思います。以上、総合戦略の延長に関するご説明をいたしました。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>只今ご説明をいただきましたけども、委員の皆さんからご意見、ご質問があればお願いします。</p>
玉置委員	<p>差替えられた資料は、結局どこが修正されたのでしょうか。</p>
政策企画課長	<p>失礼しました。差替えさせていただきました資料の修正点であります。</p> <p>1 頁の「1. 概要」のところにあります。最初の資料では、総合戦略を 2 年間延長することについての具体的な記載がございましたので、そこを分かりやすいように 3 行目以降「総合振興計画と一本化をしていく」ということを明確に謳っております。失礼いたしました。</p>
大谷委員	<p>総合戦略の 48 頁の放課後児童クラブ設置事業ですけども、目標値の定員数が伸びているのですが、これは民間の事業所も入っているのですか。</p>
健康福祉部長	<p>民間の放課後児童クラブは、浜田市にはありませんので、公設の放課後児童クラブの人数でございます。</p>
大谷委員	<p>松江市がやっております民間の児童クラブ事業、メニューも多く、事業内容も素晴らしいものがあるなど見ていたのですが、浜田市では公設以外に民間へ持って行くというお考えはないのでしょうか。</p>
健康福祉部長	<p>松江市の例を存じておりませんので大変申し訳ないのですが、浜田市の放課後児童クラブは全部で 20 あり、直営と委託している所があります。委託を増やしているということはございますが、松江のように純粋に民間がお金を取ってやられるものは、考えておりません。浜田の児童クラブも段々と通いたいという方が増えてきておりますので、それをしっかりとやっていきたい。やり方に関しては、直営ではなく委託を進めて行っているところです。</p>
佐々木委員	<p>資料 1 の 2 頁の国立社会保障・人口問題研究所の策定時数値を試算したのですが、策定時は 2060 年時点での浜田市試算と社人研の差が 8,000 位あったようです。今回試算で 4,000 位縮まったのですが、令和 42 年に浜田市の試算が増えている。社人研の推計人口も策定時より 3,000 人位増えている。社人研の推計人口が増えた要因は何かわかりますでしょうか。社人研が浜田市の試算に近づいてきたから 37,000 人というのが現実的なのではないのでしょうか。これを維持していくため、またこれに向かって施策が行われるということで、大丈夫なのではないでしょうか。</p>

政策企画課長	社人研の試算が 3,000 人弱上積みされているのに対しまして、浜田市の試算が 200 人弱ということで、この社人研の伸びはということなのかというご質問でありました。細部まで把握はしておりませんが、目標に掲げております出生率に対して人口の最新データ、これが去年のデータを採用しており、これを入れることによって大幅な伸びを示しておりますが、なぜそうなっているかということ、私の方では承知しておりません。申し訳ございません。
佐々木委員	社人研が策定時より多く試算の数字が出るような状況だから浜田市も 37,000 人というのは、当然目標値としても甘くはないだろうが、このまま行くのか。200 人位上積みした数値で政策を進めて行くということですか。
政策企画課長	現在の最新のシミュレーションによりますと、そのように上積みされてくるのですが、先ほども申しましたように、まず浜田市の合計特殊出生率の最新のデータがまだないということ、それから、後ほど詳しくご説明しますが、社会動態については、非常に厳しい状況になっているということもありますので、その上で、上方修正を掛けていくというのは難しいのではないかという判断の下に、目標数値については据え置き、変更しないということを判断しております。
佐々木委員	分かりました。37,000 という数字が、これから説明いただくいろんなところの基本や目標となるものだと思います。また教えていただきたいと思います。
会長	総合戦略と総合振興計画の期間のズレがございましたので、現実的には整合性を取るということで、戦略の方を 2 年延長すると判断をしたということですが、このことについてお認めいただいたものとさせてよろしいでしょうか。 (異議なし) 特にご異議が無いようですので、浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては 2 年延長することとしまして、これから国や県の計画、特に県でしょうか、明らかになっていきますが、それに基づいて来年新たな目標設定を行うということにしていきたいと思っております。
<p>議題</p> <p>(2) 総合振興計画、定住自立圏共生ビジョン及び総合戦略の進捗管理について</p> <p>(3) 第 2 次浜田市総合振興計画前期基本計画及び浜田市定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について</p> <p>(4) 浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について</p> <p>(5) 第 2 次浜田市総合振興計画前期基本計画の進捗評価について</p>	
会長	続きますと議題 (2) の総合振興計画、定住自立圏共生ビジョン及び総合戦略の進捗管理について、そこから議題 (3)、(4)、(5) の第 2 次浜田市総合振興計画前期基本計画の進捗評価について、これらについては内容が関連いたしますので一括して説明をしていただきたいと思っております。皆様からのご意見ご質問につきましては、後ほどお伺いしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。それでは、議事進行を進めさせていただきますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。そうしますと事務局から一括して説明いただきますようお願いいたします。
政策企画課企画係長	失礼します。私の方から先ほどありました議題 (2)、(3)、(4) のそれぞれの進捗管理の件について、一括して説明させていただきたいと思っております。始めに資料 2 をご覧ください。 「浜田市総合振興計画、定住自立圏共生ビジョン及び総合戦略の進捗管理」ということで、概要を簡単に説明させていただきたいと思っております。 1 番目の第 2 次浜田市総合振興計画前期基本計画の進捗管理につきましては、6

年間のうちの、今年は3年目の進捗管理になります。目標数については145項目になっております。そのうち、総合戦略には51項目を同じ項目で抽出させていただいております。評価方法につきましては、2018年度実績値についての内部評価を行ったものにご意見をいただくというものであります。変更になりましたのは、昨年度の審議会の中でもお話しさせていただきましたが、目標値について達成したもの、達成の見込みがあるものについて、今回より上方修正させていただいて、進捗管理の方に反映させていただいております。

続いて2の浜田市定住自立圏共生ビジョンの進捗管理につきましては、32項目成果指標がありますが、総合振興計画から同じ項目を抽出しております。従いまして、同じ進捗評価とさせていただきます。

3番目の浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗管理につきましては、1年総合振興計画とずれております。1年早く総合戦略の計画が始まっておりますので、今回が4年目の進捗管理となります。評価方法等については、総合振興計画と同じような進捗評価とさせていただきますが、この総合戦略につきましては、国からの地方創生交付金をいただいた事業も一緒にご審議いただくということになっておりますので、地方創生交付金に関する事業実績の進捗評価を載せさせていただきます。変更事項につきましては、先ほどご審議いただきました計画期間を2年間延長させていただくことを予定しておりますので、目標についても進捗管理の中で2021年度までの目標値に追加をさせていただきます。後は、総合振興計画と同じように、目標を達成したもの、達成の見込みがあるものについては、上方修正をさせていただきます。

裏面をご覧くださいまして、進捗管理の体制につきましては、これまでどおり人口減少問題対策本部の会議を以て内部評価をさせていただき、本日の浜田市総合振興計画審議会の皆さんにご意見をいただくという体制とさせていただきます。

最後の進捗管理のスケジュールにつきましては、本日いただきましたご意見等を基に、9月議会で議会の方からのご意見をいただいた中で、平成30年度の進捗管理を纏めて行きたいと思っております。今日以降変更になりました内容については、改めて修正したものを委員さんに資料をお送りさせていただきたいと考えております。資料2につきましては以上です。

それでは、進捗状況について説明させていただきたいと思っております。資料4をご覧ください。1頁のところには、評価の総合的な纏めを載せさせていただきます。小さく括弧書きの数字があると思いますが、これは前年度の評価の数になっておりますので、比較してご覧いただければと思っております。一番下の実績総数のところを見させていただきまして、昨年度の評価につきましてはA評価が62項目、B評価が45項目、C評価が30項目、D評価が8項目、E評価はなしという結果になっております。全体的にはA評価が減ってB及びC評価が増えたという評価になっておりますので、評価的には少し昨年度よりは下がったという結果になったと言えます。総括的なことについては、最後の議題(5)のところの説明しますので、進捗の大まかな進退ということでお聞きいただけたかと思っております。

2頁をお開き下さい。先ほど申しましたように進捗評価の見方について、昨年から大きな変更点等はありませんが、目標値の上方修正或いは目標を追加した項目については、赤字で表示しております。従来の進捗状況の下に、従来の目標に対して新しい目標の数値がわかり比較できるように行を追加したような形で進捗評価表を変更しておりますのでご覧いただければと思っております。

それぞれの進捗評価について、時間等の都合もありまして全部の進捗評価についてご説明ということが難しいと思いますので、昨年度の審議会でご審議いただいた進捗評価から大きな変更等があったものについて、掻い摘んで説明させていただきたいと思います。

始めに産業経済部門で4頁をご覧ください。表の一番上、「振興作物農業産出額の増加」についてです。これにつきましては、規模の縮小や猛暑等の影響で出荷量が減ったということで、評価をBからCに下げています。続いて6頁をご覧ください。「クルーズ客船の寄港回数の増加」につきましては、外国船籍、昨年度は3回寄港したということで寄港回数が増えた評価をCからBに上げています。続いて7頁の「はまごちツープライス料理提供食数の増加」です。加盟店の減少により評価もB及びCが続き、厳しい状況が続いています。このことから評価項目は昨年と一緒となっておりますが、今年度からツープライスという形を廃止し、より提供しやすい制度に作り直すということを担当課で考えておられます。赤字で「目標値を3,000円以下、50,000食に変更する」ということを掲載しております。

続いて8頁をご覧ください。健康福祉部門になります。「浜田市国民健康保険診療所の常勤医師数の増加」につきましては、常勤医師が嘱託医師に変更になったということが影響して、評価をBからCに下げています。続いて9頁をご覧ください。「がん年齢調整死亡率の減少」につきましては、策定時の目標を現在達成しているということから、細分化しまして75歳未満の男女別に分けた進捗評価、これを新たに2項目追加させていただいております。この目標に対しまして昨年度評価で男性がC評価、女性がB評価ということにさせていただいております。続いて10頁をご覧ください。「地域子育て支援拠点数の増加」につきましては、新たな施設が開所できたということで、引き続き評価はAということになっておりますが、目標を達成したということもあり来年度は目標値の上方修正を行うということで赤字記載しております。続いて12頁をご覧ください。「総合的な学習の時間」で学習したことが普段の生活や社会に出たときに役に立つと思う子どもの割合の増加」につきましては、昨年度までは国の学力調査の質問項目から外れていたということで、進捗評価を対象外ということにさせていただいております。市独自でこの件について調査するというにいたしましたので、平成30年度の評価を復活させていただいております。評価につきましては、2016年度と比較して、小学6年生についてはC評価からB評価、中学3年生につきましては、C評価からA評価に上がっているという結果になっております。続いて13頁をご覧ください。「自分にはいいところがあると思っている子どもの割合の増加」について、小学校6年生の割合は下がっておりますので引き続きCという評価にさせていただいておりますが、中学校3年生の割合が前年より伸びているということで評価をCからAに上げさせていただいております。続いて14頁をご覧ください。「人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている子どもの割合の増加」につきましても、先ほどもありました国の学力調査の質問項目から外れていたものを独自の調査により評価していくということで評価が復活しております。小学校6年生の評価はB評価でまずまずというところですが、中学校3年生の評価は策定時の結果を下回っているということから評価をCとさせていただいております。続いて17頁をご覧ください。環境部門になります。「緑と花の沿道推進事業実施件数の増加」につきましては、昨年度の実績で伸びが無かったということから、評価をBからCに下げています。続いて20頁をご覧ください。生活基

盤部門になります。「市道小国峠線道路改良」につきましては、島根県と一緒に進めて行かなくてはならない事業で、県等へ要望を行っておりますが、事業化に至っていないという状況でありますので評価はDのままということにさせていただいております。続いて21頁をご覧ください。「予約型乗合タクシー1便当たり利用者数の維持」につきましては、路線や便数の見直しをさせていただき目標達成したということで評価をBからAにさせていただいております。続いて24頁をご覧ください。「防犯出前講座の開催回数の増加」につきましては、警察署による講座が増えたことで市独自の開催回数を減らしたということ踏まえ、評価をBからCに評価を下げさせていただいております。続いて26頁をご覧ください。「U・Iターン相談件数の増加」につきましては、都会地から田舎への移住思考の流れは、ある程度ピークを迎えたことから、相談件数も年々減少しており非常に厳しい状況であります。移住のツアーなど都会地からの移住の増加に向けて取り組んでいることもあり、達成率等の数値は厳しいものになっておりますが、昨年度に引き続いてC評価とさせていただいております。続いて自治区別の計画について説明させていただきます。31頁をご覧ください。旭自治区の「まちづくり推進委員会等連携会議の開催回数の増加」につきましては、研修会など開催回数を増やしたということから評価をCからAに上げております。最後、33頁の三隅自治区になります。「西条柿生産戸数の維持」につきましては、生産戸数が減って、現状値を維持できなかったということがありましたので評価をAからCに下げさせていただいております。簡単ですが、総合振興計画の進捗評価については以上になります。

続いて資料5の定住自立圏共生ビジョンの進捗状況をご覧ください。浜田市定住自立圏共生ビジョンの成果指標の進捗状況でございます。資料2のところで説明させていただきましたが、進捗状況の内容につきましては32項目全て総合振興計画と同じ評価とさせていただいておりますので、中身については割愛させていただきますが、進捗状況につきまして、評価の総合計欄を見ていただきますと、A評価については13項目、B評価は8項目、C評価は10項目、D評価は1項目、E評価はなしという結果になっております。昨年度と比較しましても、総合振興計画と同じようにB、Cの評価が増えているということになっておりますので、少し評価が下がった結果になっております。

最後に資料6のまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について説明させていただきます。昨年度の実績といたしましては、(1)「基本目標」の「数値目標」進捗状況につきましては、ほとんどの評価がC評価となっております。そして、(2)「重要業績評価指標(KPI)」の進捗状況につきましては、A評価が26項目、B評価が15項目、C評価が10項目、D評価が2項目、E評価がなしという結果になっております。また、(3)地方創生推進交付金の関係につきましては、A評価が1項目、B評価が6項目、C評価が2項目、D、E評価はなしという結果になっております。全体的には総合振興計画、定住自立圏のところでお話しさせていただきましたように昨年度から少し評価が下がった結果は一緒になったというところですので。続いて2頁をご覧ください。進捗評価の見方については、資料2でも説明させていただきましたが、総合戦略を2年延長することに伴いまして、2021年度目標値という項目を追加とさせていただいております。また、2021年度で総合振興計画と同じ目標値については総合振興計画と同じ数字を挙げさせていただいておりますけれども、総合戦略で独自の項目になっているものについては、担当部署の方で改めて2年延長の目標値の設定をさせていただいております。総合戦略

の進捗状況につきましては、総合振興計画と重複しない独自項目について、簡単に説明させていただきます。「企業立地優遇制度による雇用創出数」であります。誘致企業による新たな雇用創出等が生まれたということがありましたので、評価をDからCに上げさせていただいております。続いて9頁をご覧ください。「出生数」です。先ほど総合戦略2年延長のところでもお話をさせていただきましたが、出生数については減少傾向にあるということから、昨年度に引き続き評価をDにさせていただいております。2021年度の目標値につきましても、総合戦略計画書のなかでもお話しさせていただきましたとおり450人という目標値から400人に目標値を下げさせていただいております。続いて10頁をご覧ください。「社会増減数」についてです。社会増減数につきましては、平成28年度～平成29年度に比べると、29年度～30年度は少し改善の傾向がみられましたので評価はDからCに上げさせていただいておりますが、この進捗管理のお話の後、資料を別途ご用意しておりますので、後ほど社会増減の状況については、お話しさせていただきたいと思っております。最後に16頁をご覧ください。地方創生推進交付金の進捗評価について掲載させていただいております。「地方deしごと支援連携事業」と「ユネスコ和紙ブランド推進連携事業」につきましては、昨年度から引き続きということで、ほぼ昨年度と同様の評価にさせていただいておりますが、平成30年度からは17頁「学校を核とした官民協働による地方創生プロジェクト」が新たに地方創生推進交付金を活用した事業の取組を始めましたので、そちらの取組の進捗評価が新たに追加されております。以上、総合振興計画、定住自立圏共生ビジョン、まち・ひと・しごと総合戦略の進捗状況についてのご説明をさせていただきました。

引き続き議題(5)になります。「第2次浜田市総合振興計画前期基本計画の進捗評価について」ということで、総括的なところをお話しさせていただくのですが、その前段として、浜田市の人口における社会増減というのを簡単にご説明させていただきます。資料7をご覧ください。5年間の人口推移ということで、纏めをさせていただいております。住民基本台帳による1月～12月で見た場合と4月～3月での推移で見た状況表を載せさせていただいておりますが、人口移動につきましては4月～3月、特に年度末の3月のところで転入転出の多い時期ということがあり、比較時に数値を遡ることがあり非常に見づらいということがありますので、今回の社会増減の推移については、1月～12月の表でご説明させていただきます。

ここ5年間の状況につきましては、年間の増減については昨年と比較して、+55人という結果を示しております。過去5年の平均が△791人ということですが、最も減少が大きかった平成29年に次いでワースト2という所を平成30年は示しております。その内訳として、社会増減につきましては、平成29年に比べますと+68人ということですが、過去5年間の平均△321人と比較いたしますと、ほぼ平均値の数字を示したという結果でございます。その中で転入等については平成29年より49人増えたという結果になっておりますが、平均値よりは57人下回っているということになりますので、平成29年に次ぐワースト2という結果を示しております。転出等につきましては、平成29年より件数が19人少なかったということで、平均値と比べても49人少ないという結果で、過去5年間で比べますとベスト1という数字となっております。しかしながら、平成28年と比べて転入の数というのは少ないという状況になっておりますので、平成28年、平成29年といったところに出てきた社会増減の差を縮小させることができている

ないという状況であります。

一方自然増減につきましては、平成 29 年よりは△14 人ということで、マイナスが増えたということになります。過去 5 年間平均値は△470 人、これに対して最も数字の悪いワースト 1 の数字を示したという状況となっております。

出生数につきましては、平成 29 年よりも 6 人のマイナス、5 年間の平均値 405 人よりも 14 人下回っておりまして、平成 28 年に次ぐワースト 2、死亡数につきましては平成 29 年より+8 人、5 年間の平均値 875 人より 17 人上回っているということでワースト 1 という数字を示しております。

改めて表全体を見ていただきますと、社会増減については 28 年 29 年と特異な年がありますが、おおむね 320～330 人くらいの一定の減が続いていると言えますが、自然増減については減少数が拡大しているということで、全体の減少を拡大させているという要因になっていると言えます。次頁に移りまして、転入転出の理由別状況をまとめた表を載せさせていただいております。この内容につきましては、県が移動等の際に行っておられる「移動調査」を基にさせていただいておりますので、先ほど見ていただいた住民基本台帳による数字とは若干異なっておりますので、ご注意くださいと思います。まず棒グラフ「他の自治体との転入・転出の状況」をご覧ください。全体的には平成 29 年より県内の転入数というのは 730 人から 703 人、27 人減少ということになっておりますけれど、県外の転入数が 1,007 人から 1,087 人、80 人増加し、転出数は 1,273 人から 1,221 人と 52 人減ったということがありますので、平成 30 年と平成 29 年の社会増減数を比較しますと 98 人転出の数が抑えられたという結果となっております。このことにつきましては、理由別で見ますと県外の同伴者の転出数が非常に減ったということ、それと就業・卒業などの転入数が増えたということ、また退職・家族の事情による転入数が増えたということが一つの要因です。転入の方になりますが、転勤の転入数が増えたということ、転勤による転出が減ったということが昨年に比べ 98 人社会増減の減少が抑えられた要因だと分析しております。なお、記載等はありませんが、地域別・年齢別という所で申しますと、転勤については、県内については松江市・江津市・益田市が中心になっております。県外については、広島県・大阪府・東京都といった所が移動の中心となっております。また、年齢につきましては、20 代から 34 歳までが移動の最も多い年齢層になっております。転出の方につきましては、県内で最も移動が多い所は松江市・出雲市・益田市の方へ転出される方が最も多いということ、県外につきましては広島県・大阪府・山口県の 3 県が最も移動が多い県となっております。年齢につきましては転入と同じように 20 歳から 34 歳というところが最も多い年齢層となっております。移動理由別を県内県外合わせて纏めた平成 29 年と平成 30 年の社会増減の比較という表をご覧ください。全体的には移動の主な理由として就職と転勤という所が近年最も社会減数が大きくなっているところが理由として見て取れます。転職・転業については、近年ほぼ横ばいで推移しております。就業・卒業などにつきましては、県外からの転入数が大きく増えたということから昨年からプラスという数字を示しております。結婚・離婚・縁組・離縁などという欄については、近年プラス傾向でしたけども、昨年はマイナスに転じたという状況となっております。住宅につきましては県外への転出が減ったことが要因で、近年で最もマイナスが小さいという結果となっております。退職・家族の事情につきましては昨年との比較でも県外、特に関東圏から転入数が多かったという結果が出ておりますのでプラスの数値を示しております。最後に同伴者につきましては、県外への転出が大きく

	<p>減ったことがプラスという数字を示しております。以上、全体の人口の移動状況ということで29年と30年の増減の要因について纏めをさせていただいております。大きな雇用の会社が出来ていることや企業がなくなったというような大きな増減の要因に当たるものは見当たらなかったという風に思いますが、ここ2～3年の周期を分析させていただきますと、浜田市というのは営業所や支店等が比較的多いところということもありますので、そういったところの要因からか2から3年を周期に同じような増減の傾向を示しているということが見えていることからそういったところの小さな積み上げが、社会増減の結果としてでてきていると分析しております。今後もこの人口の動きについては、諸々の要因を分析しながら人口減少の対策について繋げていきたいと考えております。資料7については以上になります。</p>
<p>政策企画課長</p>	<p>総合振興計画、総合戦略の進捗状況について掻い摘んで説明しました。社会増減につきましても分析状況についてご説明いたしました。それを受けまして資料8でございますが、「第2次浜田市総合振興計画前期基本計画の進捗評価について」ということで総括をさせていただいております。これは昨年からさせていただいておりますが、2頁には表1、表2として30年度の内容、3頁には29年度の内容と比較ができるようになっております。表1につきましては達成率の達成度合いを、表2につきましてはABC評価ということで取組の計画が順調に進んでいるかという指標で、そういったことを分かりやすく表に示しております。それを踏まえまして1頁をご覧ください。最初に①のところでは実績値が目標値にどれだけ近づいたかを示す先ほどの表1については、75%以上の達成率になっているものが49項目ありますが、昨年度と比較するとやや伸びを示していないというような結果が出て参りました。これは目標を上方修正したことも1部理由として上げられると思います。また②のところでは表2の目標達成に対し計画どおりに進んでいるかどうかを示す指標になりますが、「A」又は「B」、「A」というのは計画どおり進んでいるということで、いわばAで当たり前ということを申しておりますが、やや遅れているという「B」評価も含めまして107項目ございます。ただ、「A」から「B」に評価が下がったという項目が多かったということもあり、やはり達成率同様伸び悩みしているという状況でございます。これらに対しては分析をした上で、個別に取組の見直し検討が必要であるというふうに考えております。③の一方でありまして、基本構想に掲げております「人口」・「出生数」・「社会増減数」の3つの基本指標につきましては、平成30年度末人口が53,710人、出生数が374人、社会増減数がマイナス371人となりました。平成29年度、昨年の評価が大変悪くございましたので、それに比べますと減少数が抑えられたという形にはなっておりますが、全体で900人近くの減となっており、5年間の平均では2番目に悪かったということもあり、厳しい状況には変わらないということでございます。社会増減については、昨年の評価と変わって県外からの転入が大きく増加したという要因もあります。このことによって昨年よりは改善したのですが、これが良い傾向になってきたという判断は、まだできないと思っております。移住・定住に力を入れていくということはもちろんであります。より地元との関係の強い方、浜田市出身者の方で若い方のU・Jターン、出身地の近くに帰ってくるというJターンを含めて、力点を置いていく必要があります。中・長期的にはキャリア教育、ふるさと郷育など幼少の頃から取り組んでいくことも重要であります。また、自然増減につきましても出生数が年々減少している傾向は変わりません。こ</p>

うした時に若い女性が1人、2人、3人と希望を叶えるような環境づくりが必要だと考えております。最後になります、やはり人口減少というものは短期的にはなかなか難しいということであり、長期的な展望に立って多岐にわたる政策を総合的に打つ出すことが重要であります。そういったことも踏まえまして、状況のいい数値については、上方修正を引き続いてかけて参ります。そして既存の事業についても更なる充実を図りながら、今後も進捗管理を行って行くということで最後の総括とさせていただきます。

よろしく申し上げます。

質疑応答について

会長 はい、ありがとうございます。議題(2)から(5)について一括して委員の皆様からご質問、或いはご意見をいただくということになるかと思いますが、お手元に準備されております本日欠席の佐々木大輔委員から質問が出ていましたので、これについて、まず事務局より回答していただくというふうに思います。

政策企画課長 佐々木委員さんから事前に質問をいただいております。資料をご覧ください。まず【全体】といたしまして目標の設定についていただいております。順番に言いますと、KPIの目標値が5年間で「1」など極めて少ない目標値、資料4総合振興計画で言いますと3頁にございます「漁港海岸長寿命化計画策定個所数の増加」が目標1か所、9頁では「子育て世代包括支援センター(仮称)の施設数の増加」、こちら目標値は1か所ということで、こういった項目について仰っておられるものと思っております。1か所が極めて少ないと言われる中で進捗評価がしづらいのではないかと、従いまして何年かに分けて課程が進捗管理できるような見直しをしてはいかがかというご意見であります。これにつきましては達成状況にもよりますが、既に達成して上方修正ができるもの、それが難しいものというものがあるのではと思っております。子育て世代の包括センターなどは上方修正が難しい部類に入るのではないかと思います。また未達成の部分も1か所という目標もあります。これについては引き続き対策を講じていく必要があるかと思っておりますが、KPIの設定についてのご意見でありますので、来年新たに国・県の動向を見て追加なりをさせていただき KPI、或いは後期計画の策定時に意見としてご参考とさせていただき KPI の設定に対応させていただきたいと思っております。続いて【基本目標1】これは総合戦略の部分になります。「以下の観点を追加することは可能でしょうか」ということでベンチャー、スタートアップによる産業創出、海外市場開拓による産業創出この2点をいただいております。項目そのものを追加ではなく観点から追加してはどうだろうかということでもあります。これについては、先ほどと同様新たな KPI を設定する際に検討をさせていただきたいと考えております。同様に【基本目標2】の「以下の目標を追加することが可能か」ということで、児童虐待件数の減少、養育里親の増加の2点をいただいておりますので、これもご意見として頂戴しておきたいと思っております。【基本目標3】「目標と KPI 設定がどれに該当するのか分からなくなりました」小中高大連携した教育の充実、キャリア教育の充実、新しい分野の教育への対応充実の3つが総合戦略のどの項目に該当するのかという意見だと思っております。これについて担当部署に確認しましたところ、連動、連携、関係するというのはございませんでした。従いましてこれにつきましても新たな目標設定の際に参考にさせていただきたいと思っております。最後の【その他】のところではありますが、予算配分が少ないのではないかと、子供の教育について言っていたと思っております。

	<p>す。特に子供さんが将来地域に定着する際に大きな要因として「仕事」というのが明白でありますので、教育の重視と産業の連携を増やすことが必要であるということで、予算の配分を含めまして目標設定についてのご意見でございますので、これらにつきましても参考意見として頂戴しておきたいと思っております。佐々木委員さんからの質問に対する回答は以上でございます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。佐々木委員からの質問ではありますが、これについて重ねて質問ありますでしょうか。</p>
玉置委員	<p>確認をさせていただきます。私も同じ質問をしようと思っておりました。今前期の状況を見ておりますが、後期の振興計画については、改めて項目を設定し直すということによろしいのでしょうか。</p>
政策企画課長	<p>はい。総合振興計画が10年間の期間、前期が6年、後期が4年ということになっております。今その3年目の評価をさせていただいておりますけれど、最終的には6年間終わったところで総括、検証をさせていただきます。その時点で次のステップの後期計画を策定させていただきます。その年度ですが令和4年度から後期計画が始まります。前年の3年度にこれまでの検証と新しい計画の策定を同時にしていくというような対処となりますので前期の反省と成果を踏まえた上で、新しい後期計画については策定いたします。</p>
玉置委員	<p>分かりました。これだけの評価項目を決めたわけですが、事が進んでいきますと進捗状況を見ながら、果たしてこういう項目だけで特定の評価目標が図れるのか疑問を所々で感じますので改めて見直し、また評価し直すということが分かりましたので安心しました。</p> <p>もう一つ、【その他】のところ「浜田市は、他の自治体に比べて、子どもの教育への予算配分が少ないと思います」と佐々木さんが仰っています。私もこのことで機会があれば申し上げようと思っておりました。聞くところによりますと今年度の小中学校の図書購入費が大幅に削られたとお聞きしました。ひどいところでは前年度の3/4までになったとお聞きしました。やはり学習のための図書というのは、一般の読み物とは違って高価のものが多く、大変困っているという声を聴きました。ここは市議会ではありませんので、これ以上回答を求めることは申し上げませんが、こういうことではまずいと思います。今の勉学環境についてしっかり目配りして強化すべきだと私は思います。</p>
政策企画課長	<p>ご意見ありがとうございました。予算配分に係るところでございますので、政策的な部分も含めましてご意見として頂戴しておきます。また新しい項目に対して、どうするかという所で検討して参りたいと思っております。ありがとうございます。</p>
会長	<p>それでは委員の皆さんにご意見またはご質問を承りたいと思っておりますが、項目が多岐にわたりますので、ご提案ですが、まずは部門別に区切って話をさせていただければと思っております。いかがでしょうか。</p> <p>よろしければ1番目、産業経済部門についてご意見或いはご質問を賜りたいと思っておりますがいかがでしょうか。</p>
佐々木玲委員	<p>産業経済になるか分かりませんが、進捗状況を説明いただきました。評価についても説明いただきました。我々市民としては、現実を認識するという事だと思うのですが、数字を見させていただいて、現状の浜田市を認識させていただいた。資料別紙の中に、石見部はインフラ整備が遅れ、産業基盤が弱いから人口がどんどん減少していると書いてあります。浜田市の産業基盤である水産都市ということで頑張っていて、そういう所で経済を引っ張ってきたのかなと思います。</p>

	<p>その産業振興がうまく進捗していかないのであれば、観光という所が最近謳われてきているのですが、どこをターゲットにどこを繋げながら経済や産業を繋げていくのかと思ったときに、浜田駅を終着始発にしていた寝台特急がなくなってしまったし、浜田発着の東京行き夜行バスも廃止になりました。最近では広島浜田間高速バスのノンストップ便もなくなっている。いったい浜田はどこと繋がってどこへ向かって観光や産業振興を進めて行くのか。進捗状況を見ながら思うのですが、どういう所の数字を見ながら取り組んでいけばいいのでしょうか。</p> <p>それから、東京オリンピック、パラリンピックが開催ということで、東京でも来年の夏の間は夏季休暇を取りましょうと。一千万人の友達が東京にやってくるからその間は東京都内の人は留守をなささいということで、東京を空っぽにしようというキャンペーンをされています。東京から出掛ける先が島根・浜田というような受け入れるキャンペーンをしてもらって、次の人口定着に繋げていくというようなきっかけにしていく。世の中の動きにうまく合致するという動きはあるのか。数字を沢山追ってもらっていますが、それを頑張っても人口減少していく。それは悲しいので、我々市民がどう動くかという所の動機付けの検証に行ければと思うのですが、どうでしょう。</p>
産業経済部長	<p>振興計画の各項目から結びつけることは、多岐に亘っているため難しいのですが、ご意見のあった観光という面から申し上げますと、もちろん今言われました出雲号が廃止になった、夜行バスがなくなったことやノンストップバスがなくなったという現状は十分把握しております。ただし、ノンストップ便がなくなっても時間や経路が変わって短縮されておまして、2時間15分位で広島まで行ける状況であります。東京につきましては、私も出雲号を活用していたのですが、今は部署の観点から石見空港から飛行機で東京に行っております。夜行バスにつきましては、料金が非常に安価だということで学生さんや皆さんから残念がった声も聞いております。</p> <p>そこで観光の観点から申しますと、まずは来年のオリンピック、パラリンピックがあります。そしてまた広島というポイント。今一番外国人が訪れる広島。そういったことを踏まえましても、今の時期に日本遺産に石見神楽、外ノ浦が決まったという所で、石見神楽を一番のキーポイントとして観光を考えております。来年のオリンピック、パラリンピックで東京に来られる方、東京の方をどうやってこっちに持ってくるかという所をまずは石見神楽を知ってもらう。日本遺産というこの契機に知っていただくということで、来年は東京で石見圏域を挙げてキャンペーンを張って、オリンピック、パラリンピックの中間地点で外国人の報道関係者がたくさん集まる時期に有名な神社で奉納神楽をやろうという話があります。独自で国立劇場で神楽を演じるという計画もございます。そういったところで日本はもとより、世界の方に神楽を知っていただいて、浜田に来ていただければというふうなことも考えております。現在も東京で神楽上演しております。大阪でも神楽の常設館が出来ております。そういったところを活用して大阪に来られた外国人の方にもJRパスを活用していただいて、浜田まで来ていただくということもありますし、広島からもJRバスに乗っていただければ外国人の方が持っているチケットでタダで浜田まで来れるという制度もありますので、しっかり日本遺産ということと石見神楽ということ 키워ドに来年のオリンピック、パラリンピックも含めて観光戦略を今練っているところです。浜田への観光人口・交流人口を増やして定住に繋げていきたい。また、石見神楽が好きで浜田に帰って</p>

	<p>きていただく方、I ターンしていただく方もおられるので、そこはしっかりと繋げていきたいと考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>佐々木委員からの発言は来年のオリンピック、パラリンピックに向けての大綱ということもありましたし、一方で長期的な戦略に係ることもあったかと思えます。ただ、差し当たりは進捗評価をしていかなければいけないですので、そちらの意見をまずは承っておきたいと思えます。</p> <p>特に無いようであればスピードアップしていきます。</p> <p>2 番目に健康福祉部門。評価に関してご意見がある方は、どうぞよろしくお願い致します。</p>
<p>玉置委員</p>	<p>総合振興計画前期基本計画進捗状況資料 4 の 8 頁を見ていただきたいと思えます。健康づくりの推進という所で「健康寿命の延伸」です。この件に関しましてはここにおられる方は私の意見を聞いて下さったと思えますが、ここに出ております健康寿命の数値がおかしいのではないかという私の意見に対して、浜田市のご回答は「これは県の個別にやっている計算方法でやっている」と平行線を辿っていた経緯があります。どうしても納得できないで、最近県の担当の人に直接連絡しましてやっとどこにギャップがあるかが分かりましたので、一つご提案いたします。</p> <p>話の順序としまして、今日お配りしております資料を説明したいと思えますので、見ていただけますでしょうか。最初の 1・2 頁厚労省が出した資料ですが新しいものと古いもので申し訳ないのですが、大体のことが分かっていたいただければ結構です。平均寿命と健康寿命の差というのは、厚労省がいているのは男性が 9.13 年、女性が 12.86 年。これは 4 年前の資料ですが大体の概念としまして、10 年の差があると国は言っていて、現在の私たちの認識になっています。2 頁を見ていただきますと県別の順が出ています。女性の場合、かなり上位にあります。6 番目に島根県がつけております。それでも年を見ていただきますと 75 に届きません。男性の場合は下がりがまして、真ん中辺りで 70 を少し超えたところです。これが島根県の位置であると厚労省は発表しています。この間県の担当者と話したら厚労省の資料というものは 3 年ごとに行われる「国民生活基礎調査」というアンケート調査に基づいて出されているものだそうです。回答者の抽出地域が調査ごとに毎回異なっていること、回答者の主観が入っており、あくまでも補助資料としているというふうに説明がありました。主観が入っているというのは、例えば要介護 2、3 だという方でも「自分は自立している」手助けはあるけれども自立していると思っている方は「自立している」という所に丸をする。そうすると自立で把握されるのです。そういう意味で主観が入っていると説明されました。</p> <p>ということで、厚労省の資料は少なくとも島根県は補助指標としてしか見ていないわけですが。島根県の独特の計算方法というのは 3・4 頁に実例を挙げておきました。赤く囲んだ表を見ていただきたいのですが、直近で出ています数字で県の平均寿命は男性が 80.13 歳、女性が 87.01 歳です。それと同時に 65 歳の平均自立期間が男性 17.46 年、女性が 20.92 年。つまり人生最後の期間で自立している。誰の助けも得ないで自分で自立して生活している方の年数がこうである。目標値が横に出ています。ここで注目していただきたいのは、島根県は「健康寿命」という用語を使っていないということです。これまでの浜田市の説明では「65 歳の平均自立期間がこうだからその数字に 65 を足して健康寿命だ」というふうにここに書いておられる。これが資料 4 の 8 頁の数字ですけれども、どこに相違が生まれ</p>

	<p>るかという、平均寿命が男性は 80.13 歳であるのに、健康寿命がそれを超えているというようなおかしなことになる訳です。女性はそこまでいかないとしても本当に介護のいる年数は最後の数年ということで国が言っている大体 10 年ぐらいのギャップがあるのです。結局、県の立場としては「健康寿命というのはなかなか出しにくい。65 歳時点での平均自立期間という数字は書いてあるままの意味でありこれに単純に 65 歳を足して健康寿命ではない。そういう使い方をしては間違いです。」という回答でした。4 頁は参考資料です。圏域それぞれの平均寿命とそれぞれの 65 歳の平均自立期間。要するに「65 歳の」ということで単純に 65 を足してはいけない数字だそうです。指標が要介護度数とその地域の人口といったものが基本指標となって複雑な計算をして出すのがこの 65 歳の平均自立期間という説明がありました。そこで私の提案は、「健康寿命の延伸」に対しては簡単に 65 を足さないで、島根県の出している「65 歳における平均自立期間」、これをこのまま採用していただきたいと思います。でなければおかしなことになりますし、この数字はこのように使う数字であると県の説明でもあります。島根県はこういう計算をしているということです。私は納得いたしました。その上で、65 歳時点での平均自立期間と書いてありますと、どうしても私たち素人は 65 歳にあと人生これぐらいあるのだと足してしまうのですが、それはやっぱり誤解を生みやすいと思います。本当ならばやはり一般市民も分かりやすい指標とその説明を考案していただきたいというのが私の最終的な結論なのですが、今そういうことを言っても仕方がないし、島根県の計算方法を採用するというならそれで結構ですから 65 歳を足さないで、その項目は「65 歳時点での平均自立期間」ということで、その意味するところは健康寿命の延伸ということで私は意味が通ると思います。皆様にご提案ですが、いかがでしょうか。</p> <p>このことは、私たち地域の健康寿命をできるだけ長くするというが目的なわけで、それが意味するところ、どういう数字が公表されているかが正しく理解されることが大事なことだと思いましたので事務局のお手を煩わせましたけどもこの資料を配付させていただきました。ですので、私の提案は「65 歳時点での平均自立期間」これをこのまま採用して健康寿命の延伸の測定値として使うことを提案します。</p>
会長	健康福祉部門の 2 健康づくりの推進に係る目標として「健康寿命の延伸」の評価指標としてのあり方についての提案でした。まずは委員の皆様、ご意見ご質問があればお願いします。
佐々木玲委員	浜田市の判断の統計表記を県のものに合わせろということですか。
玉置委員	今県が出している浜田圏域の 65 歳の平均自立期間をそのまま使っておりますよ。ただ、問題はそれに 65 を足した数字をここに出しているということです。
健康福祉部長	結論から申しますと、玉置委員さんの言われるとおりで、分かりにくいということであれば、そのように変えさせていただきたいと思います。国の方の健康寿命が男性 70 歳といっている時に単純に浜田市の数字を見たときに 80 歳なのかと感じられる方もおられると思います。それを防ぐために説明等入れておりますが、どうしても分かりにくいと思っております。元々こういった健康寿命という概念が全国的に比較する指標という良いものがどこの市町村もなく、何か良いものはないかということで今日に来ております。この総合振興計画の前に計画を作るときに何か良いものはないだろうかということで、保健所や県立大学の先生に入っていて色々相談して作ったのがこの 65 歳を足してはどうかということ

	<p>だったのだと思いますが、今の最新の健康推進計画では玉置委員さんの言われるとおり 65 歳の平均自立期間と平均寿命を使っておりますので、事務局と具体的にどういふふうに変えるか相談しないといけません、玉置委員さんの言われるとおりにできれば変えさせていただきたいと思います。ありがとうございます。</p>
会長	<p>はい、執行部の方から前向きな回答でありましたが、そのように変更することによろしいでしょうか。</p>
木村委員	<p>今の案件は、策定時のところまでに戻って、そこからきちんと整理していくというふうに理解してよろしいのですか。</p>
会長	<p>それが可能ですか。</p>
地域政策部長	<p>この総合振興計画そのものが、議会の承認を得て内容がすべて決まっていますので、途中で指標を変えるというのはなかなか難しい問題もありますが、確かに分かりにくいと委員からのご指摘もありますので、今議会でもご説明をしながら、より実態をつかみやすい数値としてこちらを追わせていただきたいと思いますというので、遡って修正することを考えたいと思います。</p>
会長	<p>よろしいでしょうか。</p>
玉置委員	<p>繰り返して申しますが、数字は全て 65 を引けばいいのです。65 を足すので自立期間という数字の使い方が間違っていたということで、遡って変えられるのであれば全部 65 を引けば筋は通るわけです。どのように言葉を変えられるか、それは事務局にお任せします。</p>
会長	<p>議会への説明も必要であるようなので、その対応は事務局にお任せします。基本的には分かりやすい指標を採用するというので進めていただきたいと思います。</p> <p>時間が押してまいりましたので、他に健康福祉部門でありますでしょうか。</p>
木村委員	<p>9 頁のところの「3 子どもを安心して産み育てる環境づくり」の「認可保育所定員数の増加」、それから次頁の「放課後児童クラブ定員数の増加」。これについての定員数の問題で、現状の定員数は分かるのですが、ただこの数字を追っただけでは本当の環境づくりとして進んでいるのかどうかという所が見えてこない。その定員数をどんどん増やしていくということは、預かる子ども利用される方が増えていくのは分かるのですが、現状どのくらい希望に沿って保育所入所できたのか、児童クラブが利用できたのか。待機児童が生まれているのではないのかという不安も出てくるのです。そこら辺が本当は問題なのだと思います。今回言われている定員数について上方修正しますと説明していますが、利用者が多いということだとわかりますが、その定員数を増やすことによってきちんと次年度に向けての方針、子供たちの希望を叶えられるような環境づくりができているのかどうかということが、この数値だけでは見えてこないで説明をしていただければ良いのではないかと思います。それを【今後の取組】欄へ書き込んでいただければと。保育所定員数と児童クラブ定員の 2 項目について、現状待機児童は生まれていないのか、説明いただければと思います。</p>
健康福祉部長	<p>まず保育所の方ですが、待機児童は出ておりません。ただ、昨年度で申しますと年度途中で受入れが難しいという事例はございました。今年度になってからは、待機児童は出ておりません。次の放課後児童クラブですが、一か所放課後児童クラブを増やしましたので、今年度待機児童は出ておりません。ただ、昨年度あるクラブで 7 名、高学年の子に遠慮いただいたということがあります。そういうことがあったということもあり、平成 30 年度から 1 クラブを新設してそういったこ</p>

	とが無いように進めているところです。というところで、今年度については、保育所も児童クラブも待機児童ないということでご理解いただきたいと思います。
木村委員	目標値の中に設定されているわけですか。
健康福祉部長	はい、何人ぐらいの移動があるだろうという所を絶えず見ながら進めているところです。
会長	ありがとうございます。より保守的な定員よりも実際のニーズをより確実にカバーできているかというご指摘でしたが、現実的には評価しようとした定員を引き続き使いつつも、その辺りの説明をしていただいて実掲するときには少し工夫をするということではいかがでしょうか。 その他よろしいでしょうか。
村井委員	今殿町にある子育て支援センターがかなり老朽化していますが、これについてなかなか次の段階について私たちに見えてこないもので、そういったところをお聞かせ願いたい。
健康福祉部長	子育て支援センターを新しくしたいということで、何年も前から進めております。基本構想も出来上がりまして、今どこに造るかという所を決めかかっているところです。現在の予定で言いますと令和4年4月1日オープンということで進めております。
会長	はい、よろしければ先に進めます。教育文化部門で何かありますでしょうか。 (意見なし) 無いようでしたら次に進めます。環境部門。 (意見なし) よろしいですか。次は生活基盤部門になります。
木村委員	21頁で地域の自主組織が車を使って送迎するという所です。3団体で認められて、引き続き継続していけるよう支援するという項目がありますが、実際に希望が出ている組織が他にあるのだろうかということをお聞かせ下さい。希望があればそういうことについて援助していくという方針がなされているのかということをお聞かせいただければというふうに思います。周辺で非常に過疎が進んでおりまして交通弱者が非常に大きい問題になってきているので、その辺りでのお考えをお聞かせいただきたい。それから23頁の汚水処理の問題です。パーセンテージがあって県内8市の数値が示されておりますけども、県の西部ではこの事業が非常に遅れているという数字が出ているわけです。今国府の地域においてはようやく完成しようというところで表記されていますが、この地域の加入率というのはどのようになっているのかという所をお聞かせいただければと思います。それから、その地域の後にやろうとしている地域についてお聞かせください。51%を目指すということなので1つ、2つの計画がなされているのかと思いますので質問いたします。
地域政策部長	交通空白地でドア ツウ ドアで住民の皆さんの交通手段を確保するという事は、大変大切なことだと思っております。ただ、現在この事業を運行しようと思いますと、地元の住民組織の同意ということがありまして、現時点で新しい要望は聞いておりません。今後、こういった希望がありました時には、ぜひ応援したいという気持ちでおります。
上下水道部長	続いて、汚水処理普及事業について、上下水道部長の坂田でございます。このパーセンテージにつきましては、当然島根県西部遅れております。ようやく半分くらいになったなという状況の数字でございます。国府につきましては、今接続

	<p>率 50 数%ということで、年に数 10 件ずつ接続していただいておりますので数パーセントずつ上がっていくものと考えております。汚水処理ということになりますと合併浄化槽の補助制度を引き続き行っておりますのでこういった部分を含めまして、市としては汚水処理普及率を高めていきたいと考えております。次の計画でございますが、今の段階では、具体的に詳しいお話はできませんけども、市街地の中でまとまった部分を計画して進めようということは考えております。</p>
会長	<p>よろしいでしょうか。他にございますか。 先に進めさせていただいて、防災・防犯・消防部門はいかがでしょう。 (意見なし) 次に参りまして、地域振興部門。</p>
玉置委員	<p>26 頁の U・I ターン者との意見交換会が何回開かれたというのがありますが、いつも思いますのは、回数ではなくてどういう風な内容でどのように成果があったかということだと思っております。意見交換会で出た主なものにはどんなものがあったかを教えていただきたい。そこで出された意見がどのように政策に反映されているのかということをお話しいただくと嬉しいです。もう一つ、27 頁に県立大学との共同研究の件数が出ていますが、これまで件数だけでやりっぱなしという感が残念ながらしているのですが、これまでに市政に反映されてきた共同研究とはどういうものなのか事例を挙げてご説明いただきたいと思っております。この 2 件に関しては、あらかじめ質問を事務局にお渡ししておりましたので回答をお聞かせいただければありがたいです。</p>
政策企画課長	<p>まず 1 点目の質問、26 頁の U・I ターンとの意見交換会の開催回数の増加ということでもあります。こちらは 2 回ということ目標 3 回に対して B 評価といたしております。大きく分けまして、シングルペアレントの研修生の方で新しく入られた時に歓迎を含めまして交流会をさせていただいております。ここでは、研修生同士、或いは研修が終わった方、先輩方との横のつながりづくりの場にもなっており、研修生の定着に非常に効果があるものだと思っております。意見交換の方ではシングル支援制度のことで、制度採用されて間もないころはその制度の仕組みや募集された時に何を見て来られたかなど、制度上の事を伺うことがあります。一方で、浜田市に來られてどんな町だったかですとか、何か困りごとは無いかなど生活面の部分についてお伺いしているところです。伺った意見については、研修生のこれから始まる研修内容や制度そのものの運営について、参考にさせていただいているということでもあります。もう一つの U・I ターン者の意見交換会については、年 1 回やらせていただいております。これは既に U・I ターンされて定着している方を対象に集まらせていただいて、交流会の中でワークショップ形式を含めて色々な意見交換をしております。主に U・I ターンされた理由、これを必ず聞かせていただいております。自然が良いとか、仕事の関係であるとか様々な理由があります。また、浜田市のいいところであるとか、反面課題であるところ、そういうことも伺っております。やはり海や山、川という自然があるという方は生活を楽しんでおられる状況も伺いますし、人が優しく触れ合いが多い地域であるということも伺うことが多いです。反面、水道・電気代、生活のインフラや家賃において高いであるとか、店が少ない、遊ぶところが無いという若干の不便さもお伺いしております。私ども、定住相談会というものを東京・大阪・広島で定期的に参っておりますが、その時に新たな方に来ていただく際に、浜田市の強みは積極的に PR する時の参考になっております。もう一つは、移住者をお迎えする</p>

	<p>時には、先輩の移住者というのが大変大きく、いろんな悩み事や困りごとがあった時に助言していただけるような関係作りが非常に重要でありますし、これから浜田市を案内する時にもお世話になるということもあります。また移住して来られてから引き続きそういった関係性、繋がりというものが生きてきますのでそういうネットワークづくりを繋ぐことで定住者の定着にも繋げていきたいと考えており、意見交換会は有効であると思っております。</p>
地域政策部長	<p>県立大学の共同研究ということで、いくつか事例を挙げさせていただきます。</p> <p>公共交通の調査研究に取り組んでいただいた結果、実際の路線バスのルートが商業施設に回すというようなルート変更につながった、或いはある団地で買い物に困っておられる住民の皆さんのために買い物タクシー制度ということをして住民の皆さんと一緒に復活させたというケースがありました。また、先ほどありました交通困難地域の自治会輸送の具体的な中身を詰めるときにニーズ調査の結果を基にして制度が作り上げられた。地元のブランド米ということで坂本米に取り組んでおられますが、これを売っていくためにどういったやり方が良いのかということで、顔が見えるPR活動という具体的な売り込み方法の取組が始まりました。また、子育て支援のニーズ調査を行っていただいております、現在のひとり親家庭での悩みをしてかり聞いていただいているという状況でありまして具体的な政策に結びついているということではありませんが、今後の事業の参考にさせていただくこととしており、このようなことが具体的な成果として考えられるものです。</p>
会長	<p>ありがとうございます。回数や件数だけではない、質的な部分をということだと思いますが、表現しにくい部分があります。引き続き工夫はしていきますが、なかなか難しいということをご理解いただきたいと思います。</p> <p>時間が押しておりますので、自治区別で何かありましたらお願いします。</p> <p>(意見なし)</p> <p>よろしいですか。その他、総合振興計画に盛り込まれていない総合戦略関係、或いはその他ありますでしょうか。</p>
賀戸委員	<p>浜田市で不登校の子供さん、それから引きこもりの方。今4万7万、また段階が一つ下がったようなことが非常に問題になっておりますが、それを何か数字的に掴んで対策を打たないと市の財政も行く行くは圧迫してくるし、この方々を生かして、立ち直る方法をみんなで考えていく必要があるのではと思うのです。ただ、個人情報の問題もあると思いますが、民生委員の方が掴んでいるのではないのでしょうか。</p>
教育部長	<p>教育部長河上です。不登校については学校の情報を参考にしており、当然個別の対応をしております。原因というのはやはり、人それぞれ違います。いじめもあれば家庭環境もありますので、それぞれその子どもに応じたような対応をしていくものです。一日でも早く通えるように、またワンクッション置いて少しそういった場所での学習活動といったことも含めて対応しております。引きこもりも併せてやっておりますけども、なかなか人数の把握が難しいということもありまして、相談なり実際に来ていただくということがありますとカウントができるのですが、それさえも出来ない方というのがおられますので、そういったところの把握については、言われました民生委員さんや地域の方の情報を含めて、できる限り把握をしていきたい、できる限りの支援をしていきたいという考えを持っております。</p>

賀戸委員	弥栄は地区が小さいので自治会長さんが把握されていると思いますので、是非そういった方を早い段階で救える、というはおこがましいのですが、社会復帰していただけるというような施策を作っていただきたいと思います。
教育部長	ご提案ありがとうございました。そういった面で検討させていただきたいと思います。
会長	恐らく次期の計画に向けてのご対応というのがそろそろ出てきき始めていると思いますけど、予定した時刻は過ぎておりますので、この場で是非ということがあれば承りますが、いかがでしょうか。
賀戸委員	すみません。もう一点。島根県は高校の魅力化で色々と新しい事業をしていますが、浜田市には3校ありますが、特記した事業をする、高校を作るといったこと。市では県立だから難しいとおもうのですが、何かあればお聞かせください。
地域政策部長	実は島根県の高校魅力化プロジェクトを活用させていただいて、浜田市でも3つの県立高校の魅力化について応援しようと組織が立ち上がっております。まだ具体的な活動計画はこれから練っていかなくてはならないのですが、そういった取り組みはしておりますので、更に充実をさせていきたいと思っております。
会長	<p>そろそろ議論をまとめていきたいと思いますがよろしいでしょうか。</p> <p>資料8に総括ということで「第2次浜田市総合振興計画前期基本計画の進捗評価について」ということで文章と表がございます。これは重要だと思い、事前に会長なりの意見を事務局に出していました。表現上の問題ですので、ここは事務局と会長の方で整理をして整えさせていただくということでお任せいただければと思います。よろしく願います。</p> <p>色々ご意見が出ました。事務局に置かれましては意見に対する対応をいただければと思います。</p> <p>改めて聞きます。全体的にこれはということがあればお聞きしますが、よろしいでしょうか。</p> <p>「特になし」</p> <p>恐らく私の理解では、改めて第2回の会議を開催して審議、ご議論いただくということはないのではと思っておりますので、本日皆様から頂きましたご意見につきましては、事務局と会長にお任せいただきまして修正を掛けさせていただく。それはもちろん後日皆さんにお届けいただいで確認をしていただくという流れで進めさせていただきたく思いますが、皆さんよろしいでしょうか。</p> <p>「はい」</p> <p>お認めいただいたということにさせていただきます。ありがとうございます。先ほど申しましたとおり、修正の資料は時間が掛かるかもしれませんが、お届けしますのでご確認いただきたいと思います。</p> <p>議事は終わりました、その他です。事務局から事務連絡をお願いします。</p>
3 その他	
(1) 事務連絡について	

政策企画課長	その他の事務連絡ということで、ご提案申し上げたいと思います。委員皆さんの任期についてでございます。任期につきましては、昨年度から今年度の2年ということで、委嘱をさせていただいているものであります。今年度で終了ということになるのですが、条例上は任期については「総合振興計画に関する調査審議を要する間」ということですが、慣例として2年交代としてやっていただいております。この計画策定からずっと留任とし、お世話になっております。先ほど後期計画の事も申し上げましたが、令和3年度に令和4年から始まる後期計画について策定をするというタイミングがあります。また、令和3年に前期の検証を行うという意味もございます。従いまして、任期は今年度までとしておりましたが、来年度の1年間について、改めましてこの皆様方にもう1年やっていただきたいということで事務局として考えているところでありまして、令和3年度から重複もあるかもしれませんが、新たな委員さんで望ましていただきたいことを考えております。このことにつきまして、皆様のご了解をいただければ幸いです。でございますが、いかがでございましょうか。
会長	重ねてあと1年お願いしたいということですが、いかがでしょうか。 (意見なし) ご異議がないということになりました。
政策企画課長	ありがとうございます。よろしく申し上げます。
事務局	(委員報酬等の支払いについてお知らせ)
◆ 閉会	
会長	本日の予定は以上となりますが、改めて委員の皆様、あるいは事務局の方、よろしいでしょうか。
副市長	長時間に亘りまして、熱心にご審議いただきましてありがとうございます。いただきました意見については、先ほど会長さんのお話にありましたが、対応させていただきたいと思っておりますし、また施策の方にも生かしていかなければいけないと思っておりますので、よろしくお願いいいたします。それから、図書購入の経費が減ったということですが、浜田市の類似団体に比べますと人口一人当たりの教育費というのは随分大きくとっております。ただ、今年はエアコンを普通教室に全て設置ということで多額の経費を使っている関係で、若干そういう部分があるかもしれませんが、検討していきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。
会長	熱心なご議論ありがとうございました。進行不手際で予定時刻を大幅に過ぎ、お詫び申し上げます。本日はどうもありがとうございました。以上を持ちまして審議会を終了いたします。 お疲れ様でした。

(午後8時45分閉会、所要時間2時間15分)